

社会事業彙報

しやかりじぎょうほう

復刻版 全17巻 別冊1

戦前期社会事業の情報の宝庫！

「慈善」的概念から「社会事業」という理念が確立した一九三〇年代——
 民営・公営の社会事業施設が飛躍的に増加し、方面委員制度が全国的
 に普及した時期に刊行された本誌は、細かな行き届いた分類で、児童保
 護・青年団運動・社会衛生・廃娯運動・釈放者保護事業・労働者災害扶助
 から共同浴場・公益質屋まで、日本の社会事業の状況を幅広く、かつ
 詳細に報告！

体裁——A5判／上製／総八、七九二頁

記本——全四回（第一回配本二〇一〇年一〇月）

定価——本体揃価格 三四〇、〇〇〇円＋税

解説——寺脇隆夫

推薦——右田紀久恵・永岡正己・古川孝順

発行本——中央社会事業協会

一九二七～一九三九年発行

不二出版



『社会事業彙報』誌は、一九二七(昭和2)年から一九三九(昭和14)年まで、ほぼ一三年近くにわた

この種の社会事業情報に関しては、社会事業関係の雑誌等の片隅に多少は掲載されているが、それはごくわずかである。

この時期は、関連年表からもわかるように、戦前昭和期のいわば制度と営み・実践としての社会事業が形成され、最盛期を迎えた時期にあたる。

これらの情報記事や資料類は、一見すると断片的な情報も多い。しかし、歴史的事象とは、それらの積上げで構成されている側面がある。

私個人にとっても、長年にわたって利用させていただいている。ただし、そのすべてを所蔵している図書館等はなく、その全体を閲覧し、利用することは容易ではなかった。

学術研究上の貢献ははかり知れない。

海外彙報

日本労働代表と理事會選舉

國際労働局東京支部

六月八日は理事會改選の議事に充てられていたが都合で九月に延びた。然し政府、雇傭主、労働の各團に於ては各自の候補を八日の午前午後

労働團議長のメルタンスに會つて何故日本の

鈴木文治氏を少なくとも副委員に推さないのてあるかと尋ねると今年はもう遅い、總會に列席

社会事業彙報

昭和三年九月號目次

Table with 2 columns: Year (e.g., 一九二五, 一九二六) and Content (e.g., 浴風會設立, 地方社会事業職員制公布)

方面委員事業助成團體調

經營及連絡

- 青森縣社会事業講習會... 東京府社会事業協會聯合會... 栃木縣社会事業講習會...

法令及通牒

- 癩癬養所を建設管理すべき地方長官の指定... トラホーム豫防に関する件依命通牒...

海外彙報

- 丁抹に於ける人乳哺育施設... 佛蘭西に於ける花柳病豫防費の取締...

一九二八(昭和3)年九月号目次

一九二八(昭和3)年八月号より

内容見本

原本を86%縮小してあります

- 兒童保護 室蘭市主催少年職業指導講習會... 愛媛縣主催少年職業指導講習會... 福岡縣に於ける農繁期託児所の設置獎勵...

- 社会衛生 岡山縣下津井町公益質屋開設... 東北六縣北海道職業紹介事務打合せ會... 茨城、栃木、埼玉、群馬縣下職業紹介事務打合せ會...

- 經濟及連絡 青森縣社会事業講習會... 東京府社会事業協會聯合會... 栃木縣社会事業講習會... 福井縣に於ける社会講習會...

戦前期社会事業を検証する第一級資料

右田紀久恵 (大阪府立大学名誉教授)

本復刻版は、戦前期社会事業に関する情報の宝庫として、現行制度や行政さらには広範囲にわたる民間の実践の淵源であり、その形成過程を歴史的に検討する上で不可欠な、第一級の資料群である。

社会福祉がボーダレス化してきていると評される今日、あらためて「社会福祉とは何か」という原点に立ち戻りながら、なぜ当時の社会経済状況の中で、社会事業の成熟をめざす政策的努力がなされなければならなかったのか、その間に各巻各頁が応えている。研究と実践の両面において、歴史的変化の中で固有性を問うことが求められている時、不可欠の貴重な資料が果す役割は、従前にまして大きいものがある。

また、変化や展開を「外発性」ではなく、「内発性」に比重をおく地域福祉の視点からも、重要な資料といえる。政策と執行にかゝる国・地方関係および公私関係の詳細が、これからの地域福祉のあり方や展望の示唆を与えてくれる。「過去をふりかえることは未来に責任をもつ」(ヨハネ・パウロ)の名言が、活かされる好機の出版でもある。

(うだ・きくえ)

『社会事業彙報』の活用を期待する

永岡正己 (日本福祉大学教授・社会事業史学会会長)

『社会事業彙報』が復刻されることは意義深いことである。『社会事業』の付録だった時期は合わせて読むことができたが、中央社会事業協会に社会事業研究所が設立されて『社会事業』『社会事業彙報』『社会事業年鑑』が研究所で編集されるようになってからは、これらの三つが表裏一体であるにもかかわらず、『彙報』は目に付きにくい位置にあった。

だが、昭和初期から戦時下に至る社会事業の実際の姿を読み解く上で、『彙報』はきわめて重要であり、雄弁である。「実務者の利用に供する」ことを目的として編集されているので、各分野の記事、法運用等の質疑、社会行政資料や資料・統計等を通して客観的な動向が把握できるだけでなく、当時の社会事業行や運営の実際や重点がよく示されている。

『彙報』はやがて一九三九年一月に「発展的廃刊」され、「大衆社会事業雑誌」としての『厚生友』へと変貌することになるが、恐慌から戦時へと時代が移行してゆく中で、人びとの暮らし、社会事業の意図や役割がどのように推移していったかが、実証的に明らかになっている。そして『彙報』の時代が担っていた意味も浮き彫りにされているともいえよう。

この資料は、理論や施設・地域実践史の側面とは異なる角度から、社会事業の実像をリアルに示すものであり、今後の社会福祉および歴史研究の進展に大いに役立つ貴重な基礎資料である。広く活用されることを期待したい。

(ながおか・まさみ)

彙報をどう読むか

古川孝順 (東洋大学教授・日本社会福祉学会会長)

彙報、若い世代にとっては書くことはおろか読むことすら難しい難解熟語であろう。広辞苑には「分類して集めた報告」、大辞林には「分類別にまとめた報告、または報告書。雑報」とある。イメージとしては大辞林に近い。

社会事業の動向、日々、月々、年々を物語る多様な情報の集成、雑記録とでもいえばよいであろうか。そのような『社会事業彙報』がなぜ重要視されたのか。そこには雑誌『社会事業』の性格が関わっている。『社会事業』の主軸を構成する論稿は今読んでもかなりハイレベルである。戦前にはそういうものは存在しないが、『社会事業』はいつてみれば社会事業学会の機関誌、研究誌である。それだけに他方において、社会事業の日常(動向)を示す彙報が必要とされ、尊重され、ついには独立した冊子にもなったのである。

『社会事業彙報』の内容は情報としてみれば玉石混濁である。しかし、宝と石を分かつのは情報そのものではない。読み手のもつ虫眼鏡の質や力量、すなわち読み手の着眼力、分析力、想像力である。彙報を素材に昭和初期の社会事業の実態にどこまで迫り、イメージ化し、歴史として再構成することができるか、読者諸氏による挑戦を大いに期待したい。

(ふるかわ・こうじゅん)

社会事業彙報 昭和八年七月

財団法人中央社会事業協会

一九三三(昭和8)年七月号の表紙

□聯合道府縣立癲癩養所長會議

聯合道府縣立癲癩養所長會議は去る十月十一、十二の兩日内務省に於て開催された。同會議に於ける内相挨拶、協議事項、各所長提出議題、及び出席者氏名は左の如くである。

▽内相挨拶

凡そ如何なる病氣でも氣の毒でないものは有りませぬが、殊に癲癩に至りましては患者自身の過誤からして強る病氣ではないのに兎に角世間から思ふ嫌はれ其上治療の効果は渺々しく現はれないで眞に氣の毒な病氣と承知して居ります。諸君は此の憐むべき多数の患者を相手とせられて日々其の治療に慰安に献身的に御骨折下さることは御職掌とは申しながら御勞苦を多と致します次第であります。今回諸君が御會同になりまして熱心に御協議を悉くされることは本

一九二八(昭和3)年一月号より部分

第二回三重縣社會事業研究會

第二回三重縣下社會事業研究會は八月十七日、四日市々公會堂に於て開催された。縣社會課長野島善之助氏外課員、縣下社會事業關係者、方面委員等九十一名參集したるが協議事項は左の如くである。

一、恩賜診療券を繼續又は之に代るべき施設を講ぜられんことを其筋へ建議する件
二、未監置精神病者入院治療費減額に関する件

三、救護臺帳様式の一部改正に関する件 (三重縣私設社會事業聯盟提出)
四、委託救護費増額に関する件 (松阪市提出)

五、救護者の前世帯主に對する滞納税金に付各市の處置方法承りたし (宇治山田市提出)

六、救護法施行細則中改正の件 (説明) 救護法施行細則中醫療を要する者の看護人料を支出し得べき様其の筋(要望)したし
七、三重縣兒童保護聯盟を組織する件

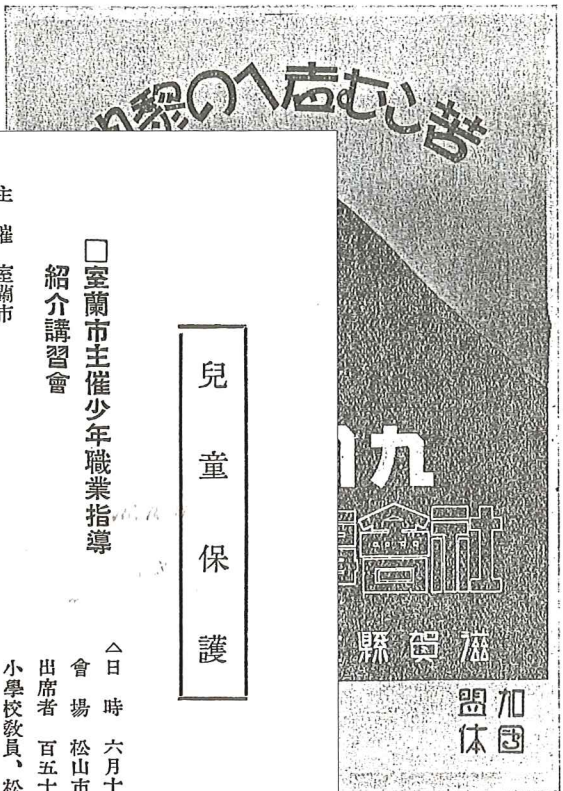
一九三四(昭和9)年九月号より部分

滋賀縣社會事業デーの實施

滋賀縣並縣關係社會事業團體協力、九月一日第二回社會事業デーを實施した、先づ縣では添付の様な方面委員制度宣傳のリーフレット十五萬枚を作り縣内各戸に配布した。縣の社會事業聯盟では別途添付の如きポストカード三千枚を作製、市町村に分配し、又方面常務委員聯合會では添付の様な小袋五萬八千枚を作製して方面委員活動資金造成の爲八十の市町村に配布した、尙縣社會事業協會では五ヶ所に方面委員宣傳の活動寫眞會を開催することとした。

(向井地方囑託報告)

一九三三(昭和8)年九月号より



兒童保護

室蘭市主催少年職業指導紹介講習會

主催 室蘭市
 期間 五月二十九日、三十日 二日間
 會場 室蘭市職業紹介所會議室
 講師
 一、職業紹介及少年職業指導の精神 社會局職業課長 川四 實三
 一、失業問題 東京地方職業紹介事務局長 遊佐 敏彦
 一、職業紹介實務 同
 一、職業紹介及信用保證制度に就て 廣濱市中央職業紹介所所長 間部興平次
 一、性能検査器取扱の説明 室蘭市職業紹介所書記 武田 幸一
 一、聽譯者 四十四名
 職業紹介所職員及聯絡小學校教員等

■愛媛縣主催少年職業指導事務打合せ

△日時 六月十五日
 會場 松山市縣巡査教習所
 出席者 百五十名
 小學校教員、松山市、三津濱町、愛國婦人會各職業紹介所員、縣市關係者等
 講演者
 少年職業指導に就て 大阪地方職業紹介事務局長 齋藤 亮
 大坂地方職業紹介事務局長 齋藤 亮
 協議事項
 愛媛縣提出

一、昨年度に於ける卒業兒童の状況に鑑み本年度卒業す可き兒童の就職に對し留意すべき點如何。
 二、兒童に對し職業知識普及に關し良策如何。
 三、就職後少年の輔導に關し適切なる方法如何。
 松山市職業紹介所

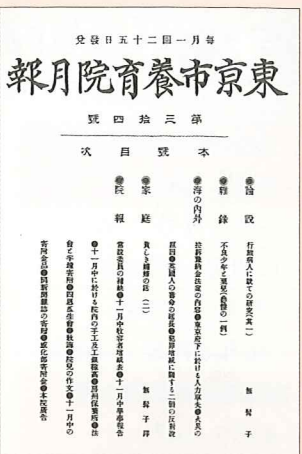
三津濱町職業紹介所
 一、各小學校に於て少年職業選擇の基礎的準備として調査法實施の状況承りたし。
 愛國婦人會愛媛支部婦人職業紹介所
 一、職業紹介所が聯絡小學校と協議會を開催する適當の時期に就て。
 一、學校と職業紹介所が緊密なる聯絡を圖るには距離遠隔にては相互不便利なり現在聯絡學校を改廢變更するの要なきか。
 一、營利紹介業者又は工場募集員の手による就職者も可成交見をして學校長教員に相談し其同意承認を受けしむるの要なきか。
 一、縣外就職希望者の取扱に就て。
 一、卒業後の就職未定のものに對し學校に於ける取扱方。
 一、卒業後目的を變更し中途就職希望者ある場合の取扱方につき。
 一、中途退學の上就職せんとする少年に對する取扱方に就て。
 一、就職後の状況調査報告に關すること。
 伊豫郡上灘小學校
 一、職業の種類及之に必要な性能調査をなし印刷の上配付方其の筋へ依頼の件。
 一、本縣主催に係る職業指導講習會を速に開催

一九二八(昭和3)年九月号より

東京市養育院月報

一九〇一〜一九三八年

全三〇卷・別冊一



首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者・子ども、ハンセン病患者ら、近代日本においてもっとも日の当たらないところにあった人々を救済する機能を果たそうとした東京市養育院の機関誌を復刻。

B5判・A5判/上製
総一三、九七四頁

- 挿定価 〓 本体四八〇、〇〇〇円十税
- 解説 〓 清水寛、室田保夫
- 推薦 〓 宇都榮子、菊池義昭、杉山博昭、永岡正己

東京孤兒院月報

一九九一〜一九二二年

全三卷・別冊一・付録一



身寄りのない子どもたちをただ「收容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家族」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤兒院 〓 東京育成園の機関誌。児童福祉・社会思想史研究に必須の資料!

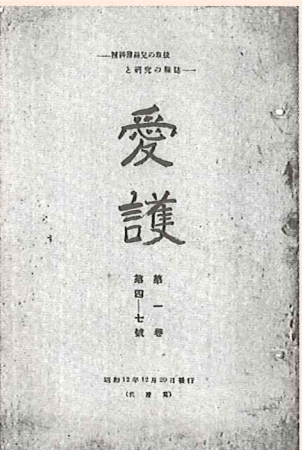
A4判・B5判・四六判/上製
総一八四二頁

- 挿定価 〓 本体八〇、〇〇〇円十税
- 解説 〓 丹野喜久子
- 推薦 〓 吉田久一、仲村優一

愛護

一九三六〜一九六三年

全四卷・別冊一



一九三四年、国や自治体の支援を期待できない困難な時代に知的障害児施設を創設・活動していた、滝乃川学園・白川学園・藤倉学園などの先駆者が集まり結成した日本精神薄弱児愛護協會(現・日本知的障害者福祉協會)の機関誌を復刻。近現代の知的障害者福祉の歩みを証言する貴重資料!

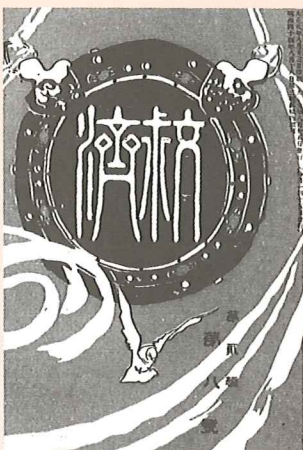
B5判・A5判/上製
総一、七〇〇頁

- 挿定価 〓 本体六〇、〇〇〇円十税
- 解説 〓 蒲生俊宏
- 推薦 〓 津曲裕次、北沢清司

救済

一九二一〜一九一九年

全九卷・別冊一



真宗大谷派の福祉団体大谷派慈善協會の機関誌の復刻版。貧困者・路上生活者・失業者の救済、刑期終了者への社会復帰事業、被差別部落の改善、ハンセン病患者への対策、知的障害児教育、児童保護事業などについて豊富な資料を掲載。仏教社会福祉の原点!

A5判/上製
総四八八頁

- 挿定価 〓 本体一六三、〇〇〇円十税
- 解説 〓 佐賀枝夏文
- 推薦 〓 吉田久一、長谷川匡俊

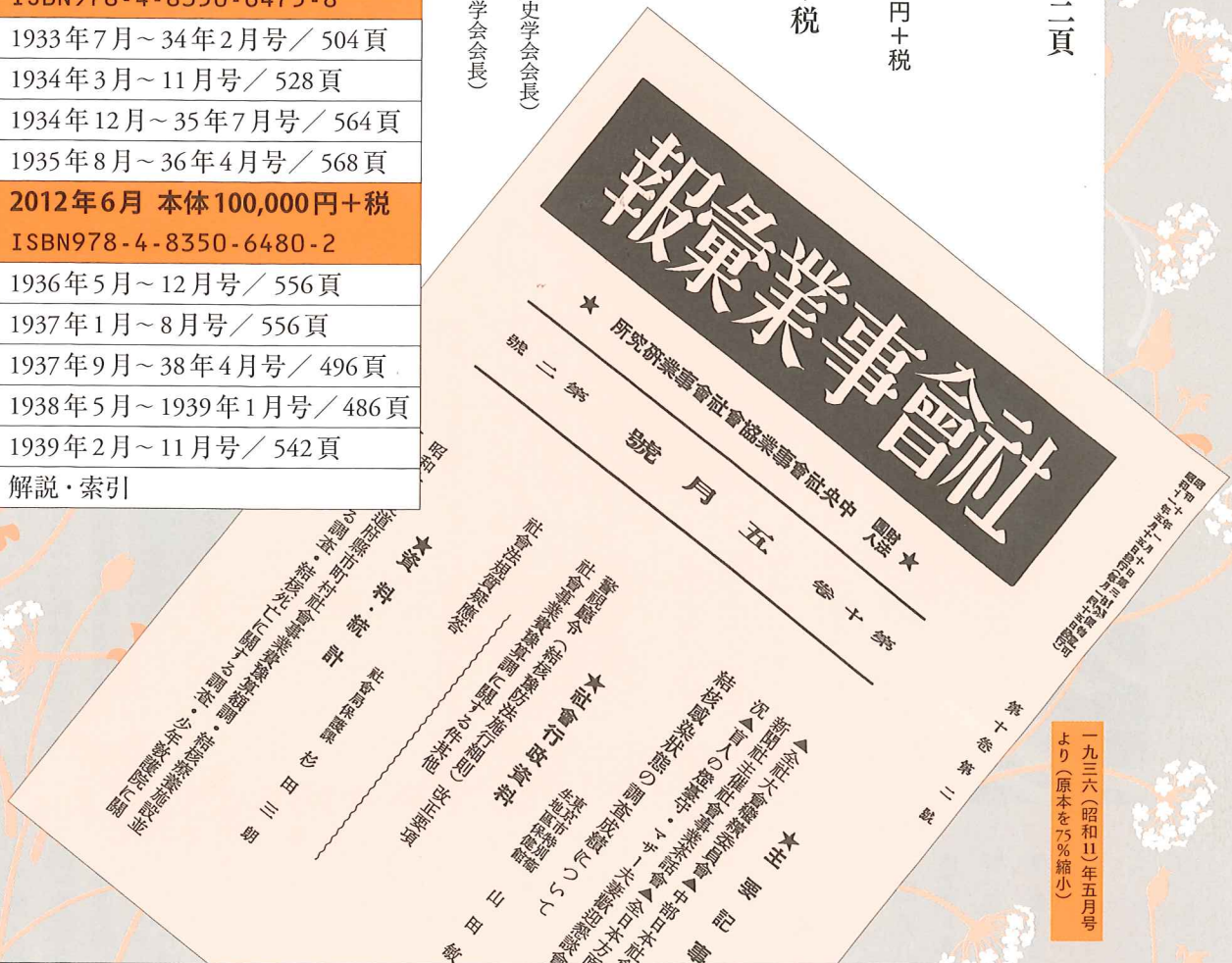
社会事業彙報

復刻版 全17巻 別冊1

復刻版概要

第1回配本	2010年10月 本体80,000円+税 ISBN978-4-8350-6465-9
第1巻	1927年6月~28年3月号 / 504頁
第2巻	1928年4月~12月号 / 546頁
第3巻	1929年1月~9月号 / 478頁
第4巻	1929年10月~30年6月号 / 496頁
第2回配本	2011年6月 本体80,000円+税 ISBN978-4-8350-6470-3
第5巻	1930年7月~31年3月号 / 540頁
第6巻	1931年4月~12月号 / 460頁
第7巻	1932年1月~9月号 / 484頁
第8巻	1932年10月~33年6月号 / 484頁
第3回配本	2011年10月 本体80,000円+税 ISBN978-4-8350-6475-8
第9巻	1933年7月~34年2月号 / 504頁
第10巻	1934年3月~11月号 / 528頁
第11巻	1934年12月~35年7月号 / 564頁
第12巻	1935年8月~36年4月号 / 568頁
第4回配本	2012年6月 本体100,000円+税 ISBN978-4-8350-6480-2
第13巻	1936年5月~12月号 / 556頁
第14巻	1937年1月~8月号 / 556頁
第15巻	1937年9月~38年4月号 / 496頁
第16巻	1938年5月~1939年1月号 / 486頁
第17巻	1939年2月~11月号 / 542頁
別冊	解説・索引

体裁 | A5判 / 上製 / 総頁数八、七九二頁
 配本 | 全四回配本
 別冊 | 解説・索引
 別冊のみ分売可 || 本体価格三〇〇〇円+税
 ISBN978-4-8350-6487-1
 定価 | 本体揃価格 三四〇〇〇円+税
 発行本 | 中央社会事業協会
 一九二七~一九三九年発行
 解説 | 寺脇隆夫
 推薦 | 右田紀久恵 (大阪府立大学名誉教授)
 永岡正己 (日本福祉大学教授・社会事業史学会会長)
 古川孝順 (東洋大学教授・日本社会福祉学会会長)



一九三六(昭和11)年五月号より(原本を75%縮小)

不二出版

- 〒113-0023
- 東京都文京区向丘 1-2-12
- TEL 03-3812-4433
- FAX 03-3812-4464
- 振替 00160-2-94084

2010年10月

*表示価格はすべて税別